

NPO 八ヶ岳南麓景観を考える会 2001



世界に自慢できるこんな素晴らしいところが日本に残っていた。
守らなければなくなるだろう。 八ヶ岳南麓の景観は日本の宝。

2005年 NPO 法人化

桑田愛子 2016/2

景観の意識づくり、啓発 → 土地への誇り

- ・ 景観写真展 2001、 古民家写真展、 景観にあった公共工事写真展
- ・ 地元の人が語る地元の歴史（大泉、長坂、小淵沢、清里、長沢）
- ・ 景観ウオーク、 古民家カフェ
- ・ フットパスづくり、 巨木をたずねるツアー
- ・ 古民家調査 2005 → 古民家の保存につながる（レストラン開業）
- ・ 自然の庭づくり・家づくりのリーフレット配布（景観にあった家づくりの啓蒙活動）

目に見える景観づくり → 良い景観の心地よさを知る

- ・ 景観修景：古民家の外壁の改修
- ・ 八右衛門湧水の駐車場の修景
- ・ 巨大ネオンの取り下げ（レインボライン沿い）
- ・ ペンキ塗り替え（八ヶ岳南麓風景街道の会）
- ・ 森づくり、 ・竹林整備、 ・野草のある沿道づくり

行政への提案と 行政の協力

- ・ 八ヶ岳南麓風景街道の会の立ち上げ（日本風景街道への参加）
- ・ 公共の看板、屋外広告物の見直しの提案

景観への価値観の共通の認識の醸成

- ・ 広報活動

景観写真展

2001



ここから景観の活動を始めました。
6カ所で実施

- ・まず、景観という意識づくり
- ・ハケ岳らしい景観づくりに向けて
共通認識の醸成

活動の成果、波及効果

- ・身近な風景が写真展になり、美しいと言われ、自信が芽生える。
- ・図書館にとっては、公の場所を市民に使用させた初めての体験。

地元の人が語る地域の歴史 2002年から



活動の成果、波及効果

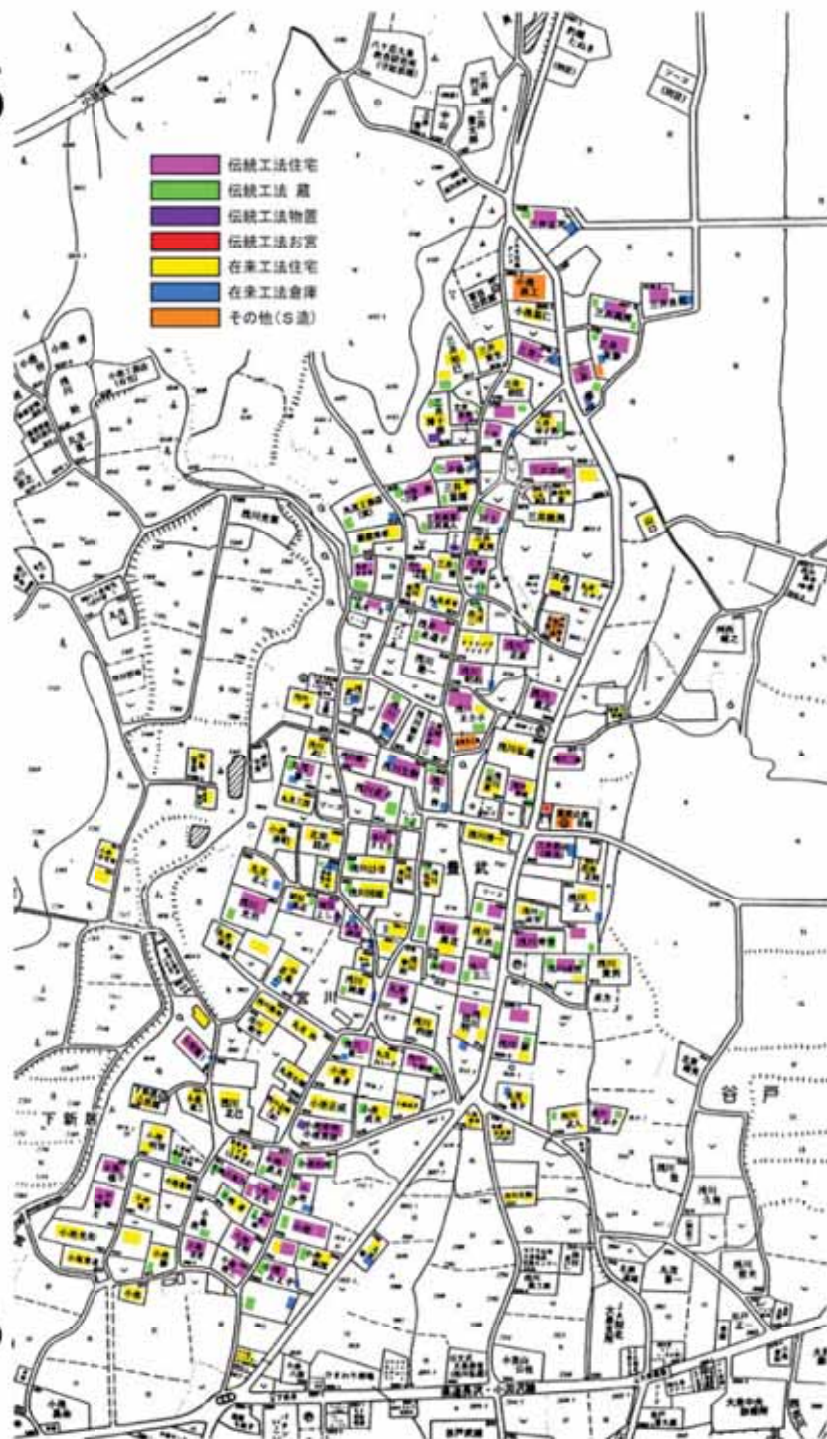
- ・普通の人に、普通の暮らし(戦前/戦後)の話をしてもらったことが大変よかった。
- ・戦前の苦勞、開拓民の苦勞へ理解を示すと、地元との話が大変スムーズに行く。
- ・地元の方は、新住民(都会人)が自分の話が役立つと知り、自信を持った。
- ・地域の歴史を、新住民に話せることを喜ばれ、とても感謝された。
- ・新住民は、地域の歴史、開拓の苦勞がわかり、地元との溝が縮まった。
- ・これをきっかけに、地元の話を聞く機会が広まり、交流が生まれて行った。(特に大泉)
→ 現在のパノラマ市場(大泉)、ひまわり市場

景観ウォーク この景色いいですよ！



- よそ者がウォークする → 地域の人自信を持ち始める。
- ここは「いいところだよ」住民が言い始めた。
- 地域資源の発掘。 この地域の古民家は切り妻が美しい
- 古民家の改修する人が現れる。 新しい家も周囲の景観にあった外観に。

谷戸の古民家集落調査 2004.6



活動の成果、波及効果

- 調査で、この集落全体に古民家が多く、集落として県内でも高い価値があるとわかる。
(調査した299棟のうち145棟50%近くが伝統工法の住宅と蔵)
- 写真展で発表。住民だけでなく村民の意識が高まる。
- 助成金が非常に使いやすく、実のある調査ができた。
- 残念だが、北杜市は古民家集落の価値の理解はできない。

紫、緑、赤が伝統工法

古民家調査(大泉町谷戸)



- 古民家の保存に、つながった (レストラン開業など)
- 意識の変化
- この地域が住民の誇りになっている
「良いところ」で「大好き！」

景観の修景～壁を変える 2007



- ・景観がよくなると、近所の人々が「よいことやっているね」と見に来始めた。
- ・良い景観はみんな良いと感じる。
- ・景観は主観ではない。

樹木による景観づくり ～ ハヶ岳在来樹木の栽培

- ・景観づくりを能動的に押し進める
- ・里山復活
- ・自然の庭づくり → ハヶ岳らしさの維持
- ・太陽光発電設備への植栽

景観意識の啓発活動

八ヶ岳らしさを提案



- 図書館などで、毎年数千部配布
- 啓発的なチラシを置く場所の開発
(郵便局、スーパー、店、食事処、カフェ、工房など)
- 景観の意識醸成、共通認識につながる
- 結果、大泉は景観への意識が高い
- 地元の人々の意識も変化
(自分たちの意見を本当は言いたい、新住民が代弁)
- 新住民と地元との接点が多い

ペンキ塗り直し まちなかの景観アップ

→ 心地よい環境へ



- 塗り直したとたん、周囲の風景がきれいに見える。
→ 景観の実感体験
- きれいにしたという達成感

ペンキ塗り替え ～ 官民協働で 2010から



行政：
・市民の関心の高さを実感

市民：
・風景をキレイにできる喜び。
・行政の参加に好感と信頼への一歩

景観は人の意識で作られる



看板、電柱の見直し ～ 官民協働で



◇行政へ 受け身すぎるのでは？

- 景観づくりは、市民からの申し出を待つのではなく、今は、行政がリードし、市民の協力を得て、進める段階ではないでしょうか（三島市）。
- 自分の感性を磨く。市民、他県から情報を得る。
- 自分で立案し、実行できる能力を磨く。
- 自治体の将来を考えた理念と信念を持つ。判断できる範疇は広い。
- 市民目線で公文書を見直し、わかりやすく、利用しやすく！
中学生が理解できる内容にする。それが、市民との信頼関係につながる。

◇市民へ：

- 景観はみんなで作るもの、我慢も必要。私権を乱用しない。
- 諦めない、行政に改善提案を伝える。できる行政の人もいる(失礼！)
- フィードバックを求めることで、行政も市民も互いに向上す、認め合う。